教室の笑顔は世界共通

―ベトナム・ドンナイ省立養護学校での美術指導―

牧 野 智 恵 子
15 年度 1 次隊　派遣国：ベトナム　職種：養護

青年海外協力隊募集要項に載っていたドンナイ省立養護学校の活動要請は『聴覚、視覚障害を持った児童教育に関する先進国の知識・経験の導入を望んでおり、日本人をいれることで教育の拡充と質の向上を目指している。音楽体育美術の授業を担当する。図画工作に秀でている生徒が多いため当該分野が得意な人材を求めている。』ということだったが、職種が『養護』であったせいか着任前、配属先は「看護師」が来ると思っていた。しかし私が美術が専門の教員だと知ると「よかったわ！学校に看護婦はいるけれど、美術教員がいなかったのよ。」と歓迎され「？！・・・まぁ、良しということだ。」と思いながら活動開始。新規隊員だったため、受け入れ側も隊員も何から何まで手探りのスタートだった。毎朝のラジオ体操や日本の童謡を歌ったり盆踊りなどもしたが、活動のほとんどは美術教育を通して生徒の可能性を引き出すことにつくした。

ベトナム手話をコミュニケーション手段とする聴覚障害児、ほぼすべてをベトナム語の音声のみでコミュニケーションする視覚障害児、不器用な子、やんちゃな子、さまざまな生徒とそれを取り巻くベトナム人教職員と共にすごしたベトナムでの教員生活は、私にとって、かけがえのない経験となった。

一番印象的なことは、『教室に生徒がいることの幸せ』。これは世界共通の『幸せのかたち』なのだと思う。

ベトナム・ドンナイ省立ドンナイ養護学校　Trung Tâm Nuôi Dạy Trẻ Kuyét Tật Tính Đồng Nai

ドンナイ省立の盲聾学校。ベトナム南部にあるホーチミン市から約 30km のビエンホア Biên Hòa 市にある。ビエンホア市は日本企業など海外資本の企業も多い工業都市。

ベトナムにおける特殊教育は教会立等の海外資本による施設が多かったが、近年公立特殊教育施設も各地で開設されてきている。現在ハノイ、ホーチミンの二大都市には公立の盲聾知肢各特殊教育学校が複数あり、地方でも幾つかの省が盲聾学校を開設している。現在政府がすべての生徒が学校教育を受けられるよう統合教育を奨励し各地で障害児教育研修が活発になり本校も研修協力を行っている。ベトナムにおける特殊教育校はこの 10 年間で開校されたところが多く今後の発展が期待される。

設立：１９９７年８月

管轄：ドンナイ省教育局

生徒：視覚障害児（約 20 名）と聴覚障害児（約 120 名）

教職員：校長１名、教頭 1 名、教員１３名、舎監 7 名（教員との兼職あり）、事務職２名、給食調理員１名、守衛２名、時間講師数名　　2005 年現在

教育課程：小学校（盲教育 5 年制、聾教育 7 年制、ベトナムの通常小学校教育は 5 年制）中学校（4 年制・2004.9 開設）の課程がある。留年あり。当校開校以前は障害児教育校が無かったため過年児が多く、現在校生は６歳～20 歳。

学級編成：中学部：盲聾合同学級。各学年 1 学級１５名前後。各教科の時間講師来校。

小学部：各学級、生徒約１２名前後、担任１名。盲学級：複式学級、聾学級：1,2 年課程は各２年間、計 7 年制。

教育内容：普通教育と同じ。教科書も共通。

進路指導：職業教育は本校の今後の重点課題。2003 年小学部卒業学年の５年生に対しドンナイ省立職業訓練センターの協力で縫製、電工の職業教育を行った。しかし 2004 年 9 月より中学部課程が開設されたため小学部で職業教育をする必要性が低くなり継続されなかった。しかし、中学部卒業を見通し職業教育・進路開拓は必要不可欠である。予算や設備環境等課題は多い。

就学前教育：地域の１才～５才の幼児対象。教員が家庭に赴き保護者に対し指導方法を教える。教員体制が不充分なため僅か。

寮：盲１棟、聾６棟、各棟約 20 名。各棟舎監 1 名弱。通学生もいるが、省内唯一の省立養護学校のためほとんどの生徒が寮生活。

寮費：食費として月 80,000 đóng（約 600 円）入学時に判定があり、ドンナイ省以外からの入学等の場合 220,000 đóng。養護学校がある省はまだ少数のため、親戚宅などに籍を置くなどして入学する生徒も多い。

学費：無料

施設：教室兼寮、事務室、講堂、食堂の平屋１３棟。

聾教育：設備、機材、人材等不足の理由から補聴器の使用環境が整っておらず手話によるコミュニケーションが中心。高学年の全生徒は海外から寄付された中古補聴器を配布されているが、性能不充分、本人が口話よりも手話を好む、補聴器用電池を買う経済的余裕がない、学校の敷地に線路が隣接しており約１時間毎に通る列車の騒音が激しい等の理由で通常はほとんどの生徒が使用していない。ベトナム統一手話（ベトナム語の指文字と手話）を使用。日本手話と較べ語彙数は少ない。またベトナム国内で使用されている手話はまだ統一されておらず、アメリカ

手話などを使う学校もある。

盲教育：視覚障害児は６点点字を使用している。

年間予算：850,000,000 đóng（約 600 万円）

週時程表（2003 年度　聾２年生）

	月	火	水	木	金
（5:30～6:00）	Thể đục、Chạy　体操、マラソン				
1　（7:00～7:40）	Chào cờ 朝礼	Thể đục 体育	Tập đọc 読み	Thể đục 体育	Chính tả 書取り
2　（7:40～8:25）	Tập đọc 読み	Toán 算数	LT-Câu 会話	Tập đọc 読み	Toán 算数
3　（8:25～9:10）	Tập đọc 読み	Chính tả 書取り	Toán 算数	Tập viết 書き	T.L.V 作文
（9:10～9:40）	Ra chơi　中休み				
4　（9:40～10:20）	Toán 算数	TN-XH 理科社会	Kĩ thuật 技術	Toán 算数	Kẻ chuện
5（10:20～11:00）	Đạo đức 道徳	On tập 復習	補習	Mỹ thuật 美術	NN KH 手話
	昼食、昼寝				
1（14:00～14:30）	Tập đọc 読み	Nghĩ 休み	Tập đọc 読み	Nghĩ 休み	T.L.V 作文
2（14:30～15:00）	Toán 算数		LT-Câu 会話		On tập 発音練習
(15:00～15:30)	Ra chơi 中休み		Ra chơi 中休み		Ra chơi 中休み
3（15:30～16:00）	Đạo đức 道徳		Toán 算数		Toán 算数
4（16:00～16:30）	On tập 復習		On tập 復習		Sinh hoạt 生活
（16:45～17:00）	Thể đục、　体操				

TN-XH：Tự nhiên-xã hội
LT-Câu：Luyện từ-Câu
T.L.V　：Tập làm văn
NN KH：Ngôn ngữ ký hiệu

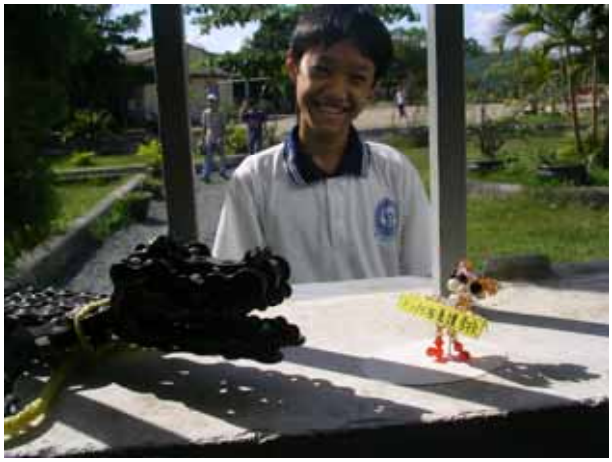


写真１

写真１
ベトナムドンナイ省立養護学校内。200３年 8 月～２005 年 3 月約 2 年間暮らした自室窓から。全寮制のため窓を開ければ、いつもそこに生徒がいる。後ろに校庭と教室棟が見える。ビーズの猫は生徒作品。

写真２

写真３

聾学級授業。1 クラス 10 名前後。担任 1 名。ベトナム統一手話と口話の両方を併用して指導している。
写真２：教員がボードで示している単語を指文字と発声で読む。
写真３：教科書を読む。教科書は普通教育用とおなじもの。

次ページは，訪問者と聾生徒が交流するための自作簡単ベトナム手話図。ベトナム共通手話の冊子が数冊発行されているが数が少なく校内でもあまり普及していなかった。

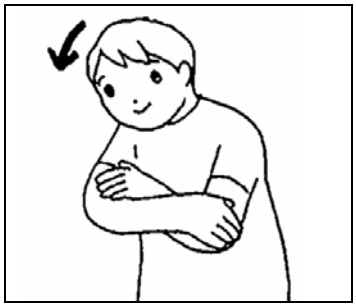
《 ベトナム語　手話 》 初めての出会い　:《Vietnam Go　Syuwa》Hajimete no Deai

《Ngôn ngữ ký hiệu Việt Nam》Lần đầu tiên gặp

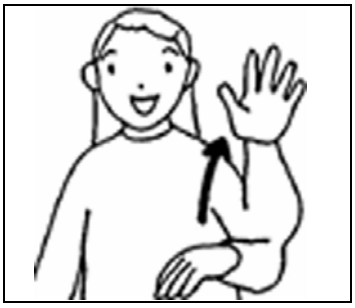
JOCV 15-1　ドンナイ省養護学校　牧野智恵子
Trung Tâm Nuôi Dạy Trẻ Khuyết tật Tình Đồng Nai
Makino Chieko

Xin chào：こんにちは Konnichiwa

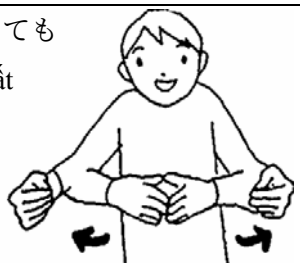
Trẻ em chào người lớn
：子どもが大人に対してするあいさつ



Chào bạn bè, đồng nghiệp
：大人同士のあいさつ



Rất vui được gặp Bạn：お会いできてとても嬉しいです。Oai dekite Ureshii desu.

とても Rất 	嬉しい vui 	会う gặp 	あなた Bạn

Tôi tên là ☆☆☆：私の名前は☆☆☆です。Watashi no Namae wa ☆☆☆ desu.

私 Tôi 	名前 Tên 	Chữ cải ngón tay 指文字

Bạn tên là gì?　あなたの名前は何ですか？：Anata no Namae wa Naini desuka?

あなた Bạn 	名前 Tên 	何？ Gỉ?

Tôi tuổi： 私は☆歳です。Watashi wa ☆Sai desu.

私 Tôi	数 Số ky hiệu ngón tay 別表参照	年齢 tuổi	

Bao nhiêu tuổi?：何歳ですか？Nan Sai desuka?

いくつ Bao nhiêu	歳 tuổi	

Gia đình có mấy người?：家族は何人ですか？Kazoku wa Nan nin desuka?

家族 Gia đình	いる có	いくつ mấy	人 người ?

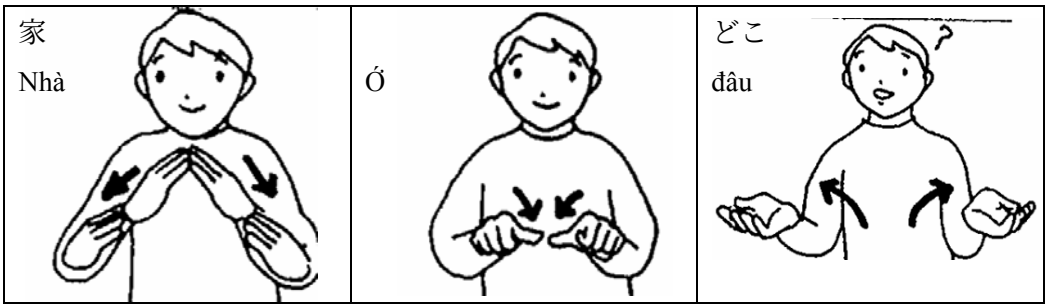
家族８人で、お父さん、お母さん、お姉さん、お兄さん、私、弟、妹です

Gia đình có ８người , Ba , Má , Chị gái ,Anh trai ,Tôi ,Em trai ,Em gái

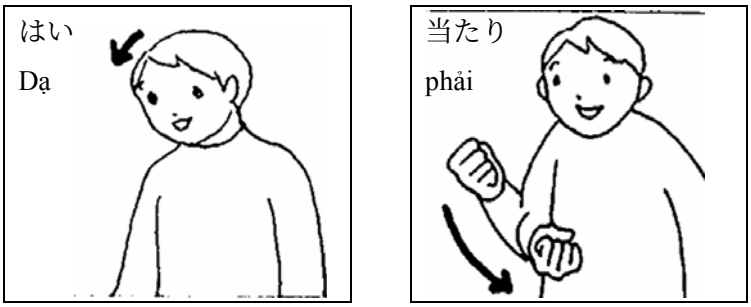
8nin Kazoku de Otousan Okaasan oneesan Oniisan Watashi Otouto Imouto desu.

数 Số ký hiệu ngón tay 別表参照	人 người	お父さん Ba	お母さん Má
お姉さん Chị gái	お兄さん Anh trai	弟 Em trai.	妹 Em gái

Nhà ở đâu?：家はどこですか？Ie wa Doko desuka?

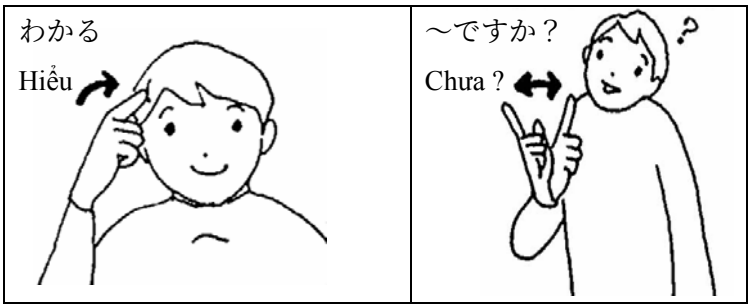


Da ,phải：はい、そうです：Hai soudesu･･･



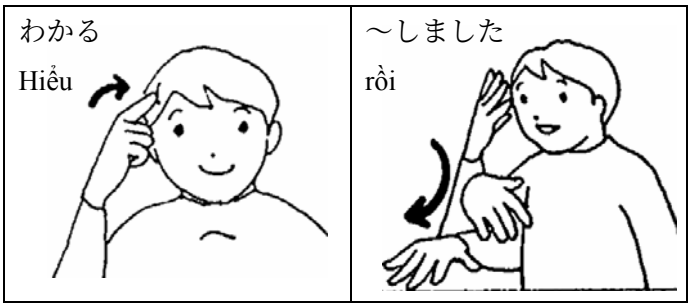
Không：いいえ Iie

Hiểu chưa?：分かりましたか？Wakarimashita ka?



Ăn：食べる Taberu

Hiểu rồi ：分かりました Wakarimasita

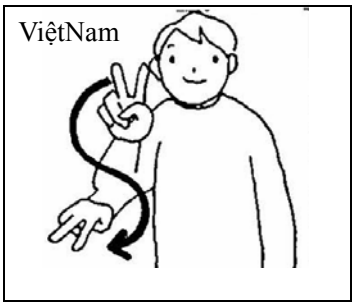


Chưa hiểu：分かりません wakarimasen

Ngon：美味しい　：Oishii

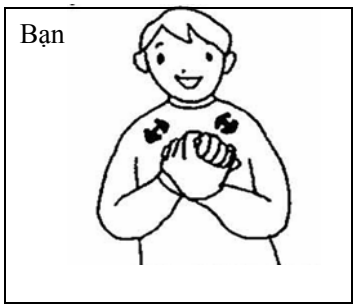
Không ngon：美味しくない Oishikunai /

Việt Nam：ベトナム Vietnam



Nhật Bản： 日本：Nihon

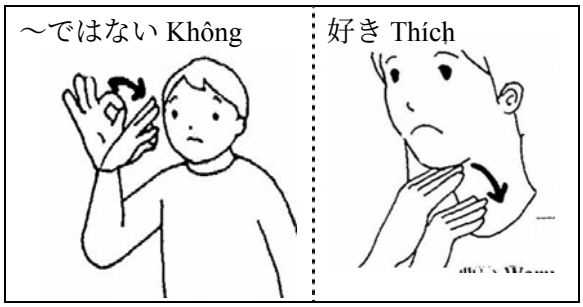
Bạn：友達 Tomodachi：



Thích：好き Suki

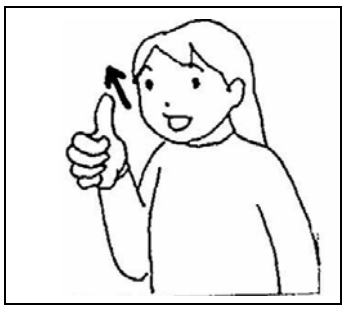
Yêu：愛している Ai shiteiru

Không thích：好きではない：Suki dewa nai



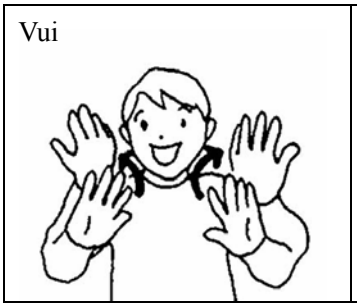
Đẹp：きれい Kirei

Tốt：良い Yoi



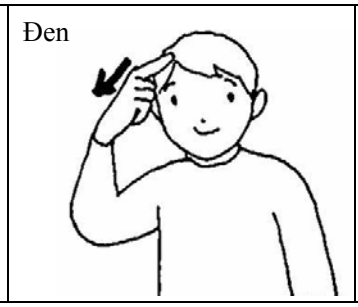
Xấu：悪い Warui /

Vui：楽しい：Tanoshii

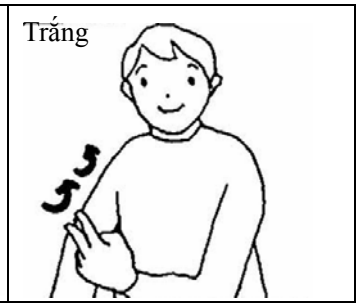


Buồn：悲しい Kanashii

Đen：黒い kuroi



Trắng：白い shiroi /



Cám ơn：ありがとうございます：Arigatou (gozaimasu)

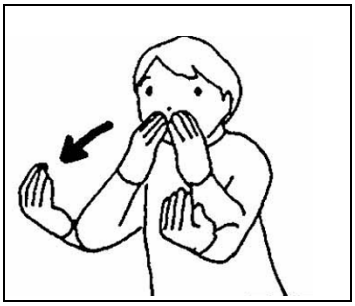


写真５ ベトナム指文字

写真６

写真７

写真８

写真６～８
盲学級授業風景。生徒が少ないため複式学級。１クラス６名前後。点字教科書はホーチミンから取り寄せる。

写真９

写真９
ベトナム盲人協会製点字板と点筆。

写真 10

写真 10
日本の勤務校である都立養護学校の元同僚から寄付された日本製点字機カニタイプ。手で打つよりも断然早く、またベトナムに入っているアメリカ製の点字機よりもコンパクトで使い勝手がよいと生徒たちは喜んだ。この後、地元のベトナム味の素株式会社からも寄付していただき、最年長クラスの授業でこの点字機を使用できるようになった。

写真 11

写真 11
聾 4 年生美術作品完成記録。生徒１０名担任１名と隊員本人。

写真 12

写真 12　美術室。『養護学校教員として音楽・美術・体育の指導を』という活動要請だったが、隊員の専門が美術であり美術の授業を中心に受け持つことになった。『上手にできる生徒だけにきれいな作品をつくらせる』のではなく、『みんなが制作に参加できる方法を考え、生徒が喜んで参加するような実践をする』ことで、『教員や管理職が、指導方法によって生徒みんなの可能性を引き出せるのだと実感すること』をめざすよう心がけた。

ベトナムの美術教科書は本来毎時ごとに一つの課題をこなす設定だが、ドンナイ養護学校では隊員に自由に課題設定をさせてくれた。生徒の創造力を伸ばす課題、作業学習的な要素を取り入れ協力し制作に参加できる課題など中心に設定し、生徒本人、教職員、保護者、一般の人達に、『すべての生徒に可能性があることを、実際に目で見てもらう』ことを目指した。そのための指導方法を考え、大人を納得させるためにある程度の完成度の高い作品をつくること、画材購入のための作品販売、多くの人の理解を得るための展覧会の設定などをしていった。

写真 13

写真 13

聾 4 年生技術作品完成記録。ベトナムでは美術で絵画、技術で工作や技術家庭科的なことを学ぶ。ベトナム人教員は見本と同じ作品を作ることを評価の対象としていたが、隊員としては教科書の題材をアレンジし創造力も育てられるような指導をすることを心がけた。

写真 14

写真 14

聾 4 年生美術。初めに学校からもらった教材は質の悪いコピー紙と鉛筆だけだった。ベトナムでの授業はまず画材道具を集めることから始まった。水彩絵の具で三原色からの色作りの学習をかね菩提樹の葉の描写、校内に迷い込んできたハトの鉛筆スケッチ、水彩による鳥の自由画をコピー紙に描いた。水彩画を切り抜き着彩したボール紙に貼って展示した。隊員活動開始後初めての共同制作品。

写真 15

写真 16

写真 15，16
画用紙を購入するのは困難だったため、仏具などを作るための紙細工材料店で箱を作るために売られていた全版の黄ボール紙を購入、生徒と裁断しマスキングをして使用した。比較的安価で絵の具の乗りもよくおおいに活用した。絵の具は市販されているものをいろいろ試し、比較的安価で発色の良いものを見つけた。また少ない色数でも生徒が自分で美しい色を作り表現できるような指導を心がけた。初めは材料や道具を校費で購入してもらうのは難しく自腹を切ったが、徐々に生徒が適切なものを使うことで力を発揮する様子を実際にやって見せ校費で購入することを納得してもらったり、生徒作品売り上げで購入できるようになった。また東京の中学校から絵の具の寄付がありそれも重宝した。

写真 17

写真 17
日本では『すべての子に体験させる』のが当り前の共通認識だが、材料の少ない所では『少ない材料で上手な子に良い結果を出させる』というのも一つの常識となる。「それならば。」と、『誰でも良い結果が出せる方法』を考え『みんなが参加することをみんなが納得する方法』を考えた２年間だった。

写真 18

写真 18
活動１年目は盲聾３、４、５年生の美術、技術の授業と、課外の美術特別選択クラスを受け持ったが、途中から特選クラスはやめ希望者全員を対象とした造形教室として人数制限をしながら平日夜と土日の教室開放をした。希望者が多く結局は常時、美術室は絵画制作、自室はビーズ制作室として開放することになっていった。

写真 19

写真 19
美術室の奥が自室だった。通勤一歩。生徒も全寮制で敷地内で暮らすため、授業時間よりも余暇の時間での関わりが濃くなっていく。『プライベート』という発想のない状況は始めはストレスでもあったが徐々に肌がなれていく。

写真 20

写真 21

写真 22

写真 23

写真 24

写真 20～24　盲クラス。盲クラスでは技術の授業を受け持ち担任がサブで入った。授業はそれぞれの教室で行った。盲クラスは『会話』で勝負することになるが拙い語学力を生徒たちの聞き取り能力と想像力が助けてくれた。

写真 20：粘土作品。２年目、粘土が寄付され授業に取り入れることができた。

写真 21：折り紙。「日本の折り紙」は有名で当初の活動要請に「折り紙を教えてほしい」とあった。盲クラスの技術は折り紙を中心に教えた。初めは紙を半分に折るのも難しかったが２年間の中で『鶴』はもとより『ユリ』なども折れるようになった。

写真 22：豆の殻、木の枝などを利用したレリーフ作品

写真 23：初めて持つ筆。みな絵を描いた経験がなかったので、筆を持った瞬間「これは何？」と聞いた。イメージの世界が広がり話が弾んだ。

写真 24：「先生の日」のプレゼント作り。行事の展示物など「盲の生徒は作れないので聾の生徒が代わりに作る」傾向があったが、技術での制作体験を通して自他共に「盲の生徒でも作れる」という意識が根付いていった。「担任の先生にプレゼントを作りたい」と夜美術室を訪れ担任にこっそり制作しサプライズプレゼントした。

写真 25

写真 26

写真 27

写真 28

写真 25～28　障害児施設のため、いろいろな団体から寄付が多い。しかし「いつも寄付される立場」であることが気になっていた。「一方的にお礼を言う立場」から互いに相手を喜ばせるような事をし「感謝しあえる対等な立場になって欲しい」と感じた。そういう思いもあり、プレゼントしたり販売できる作品作りを始めた。

写真 26：ビーズ製品制作。ビーズ制作は全校生徒の熱狂的なブームとなり、授業の合間の休憩時間、昼寝の時間、起床から就寝時間まで生徒が部屋に押しかけてきた。６歳から２０歳くらいまでの生徒たちが足の踏み場もないほどひしめき合い制作に没頭した。手指の巧緻性、数の計算、観察力、理解力、創造力、他者との協力する力などを育てることもでき、多様な生徒に合わせた課題設定をしやすい、材料を比較的安価で手に入れやすく、出来栄えが美しく万人うけする、など作業学習的にも適していた。制作にあたり、細かく私が指導するのではなく、生徒の中でリーダーを養成するよう心がけ、生徒が相互に援助しあい、私はリーダーを援助する姿勢をとった。聾児は日ごろ少ないベトナム語学力で情報を収集し理解する能力に長けているため、日本語のビーズ制作本などを理解する能力も高かった。

写真 27：ヨーグルトの空きケースなどをリサイクルして作った整理箱。

写真 28：初めての製品。JICA 経由できた日本の高校生見学団体来たことをきっかけに制作。日越の友情を記念して、ベトナム国旗の星の黄色と日本国旗の赤の色で作った星のストラップをプレゼントした。写真は販売用に作ったもの。

写真 29

写真 30

写真 31

写真 32

写真 29～34

カード制作。初めての製品づくりはカードだった。学校から省人民委員会や教育省など外部に贈るために管理職が市販のカードを買ってきたのを見て、「生徒自身がドンナイ省養護ならではのカードを作る事ができます。」と提案。はじめは「ではあなたが作りなさい。」「私が作っても意味がない。生徒が作れます。」「では器用な生徒に作らせなさい。」「いいえ年長クラスの生徒みんなで作れます。」という会話で始めたカード作り。教職員は「生徒が美しいものを作れるの？」と不安に思い、私は「受けたからには、みんなが納得する出来のものを、生徒みんなで作らねば。ここから始まる。」と思い、アイデアを練り、初めてのことに生徒たちは熱中し、結果として校内のみならず外部の人たちも感心するカードが出来た。ここから、みんなが喜ぶ、みんなが参加できる作品作りが始まる。

写真 29～31：お正月カード作り。ベトナム版画（ドンホー版画）用の和紙に中華街で購入した墨汁の吹流しでマイの木（お正月の花）を描き、割り箸ペンで黄色い花を点で表現。お札として小さくきった赤や金の紙を木の間に貼る。輸入色画用紙を全版で購入し裁断、内側に印刷屋であいさつ文を印字、表にマイの絵を貼り、字のきれいな生徒が手書きで表書きを書く。分業制にし生徒の能力に合わせて分担。ただし美術作品ではなく、人に贈ったり販売するものなので、製品の完成度は高いものとするための心構えを指導する。始めは年長クラスが制作、2 年間の活動の中で、生徒たちは先輩の姿から学び年少の生徒も参加できるようになってきた。

写真 32～34：クリスマスカード作り。『飛び出すカード』形式は珍しく販売に適していた。

写真 33

写真 34

写真 35

写真 35
生徒による初めての製品販売。完売。これ以前は私が人づてに販売し、校内に報告していたがみんなにとって販売の実感がなかった。しかし日本の見学団隊が訪れた際に、校内で生徒と教員が販売。学校の教職員にとって生徒作品が飛ぶように売れた事は衝撃的だった。みんなが生徒の可能性を目の当たりにするきっかけとなった。

写真 36

写真 37

写真 36，37
クリスマスカード売り上げによるクリスマス会。カードを製作した 5 年生（この時点では最年長）がサンタに扮し、100 人分のケーキをみんなにプレゼントした。

写真 38　同年代のベトナム人高校生訪問の際、本校生徒が制作中作品のモデルになってもらった。描画力に高校生たちが感心した。

写真 39　訪れた寄付の人にお礼として作品をプレゼントする。

写真 40

写真 41

写真 40，41　ドンナイ省越日文化祭り展覧会準備。

ドンナイ省養護学校の作品制作・販売をし好評なことが省人民委員会に届き、省情報局主催で本校生徒作品展を含む越日文化祭りが企画された。ドンナイ省には日本企業工場が多いこともあり、その社員や日本語学習者なども多く、そういう日本に関連する、日越の人たちが参加する催しとなった。20m×28mという大きな会場内の装飾はドンナイ省養護学校生徒作品を中心にホーチミン領事館による日本紹介や日本企業の展示もされた。本校の活動としては①水彩画 50 点（テーマ日本とベトナムＡ３）② お面（竹ザルにトイレットペーパーを木工用ボンドで貼り付け盛り上げペンキで着彩）③ 豆絵（大豆、お米、トウモロコシなど穀類っを砂絵と似た要領でボンドで貼りつける）④ 粘土画（着色粘土でレリーフ）⑤ ノンラー（三角帽子に日本とベトナムをテーマにペンキで描画）：②から⑤については日頃から協力してくれる地元の美術講師 Loc 先生が中心となり指導　⑥和凧（日本の勤務校である都立養護学校の元同僚が来越し生徒指導）　⑦ カード⑧ ビーズ製作　⑨折鶴や灯篭（ペットボトルのリサイクル）による会場装飾　⑪ 日本人生徒作品（埼玉の中学校、絵画教室、ホーチミン日本人学校から出品)　⑫ 両国国歌手話斉唱。⑬ 踊り⑭ 合唱「幸せなら手をたたこう」（盲生徒と若手教員日本語で合唱）⑮ 盆踊り「炭坑節」「走れマキバオウ」を行い、ほかに他校の踊りやファッションショー（ベトナム日本人材協力センターVJCC から浴衣を借り、地元大学生が行った）などもおこなわれた。

写真 42　　手話による両国歌斉唱

写真 43

写真 43

中心になって企画してくれたドンナイ省副主席。
絵画はオークション形式で販売された。生徒絵画作品を販売するなど日本では経験した事がなかったのでカルチャーショックだったが、展覧会はテレビでも生中継され多くの人が生徒作品を求めて訪れ、絵画販売もひとつの社会とのつながり方なのだと納得した。この展覧会の後、テレビ放送の影響もありドンナイ養護学校の活動は一般の人たちにも知られるようになり、画材の購入などもしやすくなった。

写真 44　ビュッフェ形式でベトナムと
日本の料理も紹介された。

写真 45　製品販売

写真 46

写真 46　日本の生徒作品紹介。日本の児童作品の子供らしい奔放な絵、中学生の色使いの美しさなど、ベトナムの生徒作品とは一味違う様子は何よりもベトナムの生徒たちにとって新鮮だったようだ。そして大人たちにとっても自分の「常識」とは違う事が刺激になったようだった。ドンナイ省越日文化祭りはドンナイ省養護学校の教職員にとって生徒の活動が一般の多くの人たちに高く評価され画期的だった。しかし、この時点では①省の援助②日本の協力隊員による生徒指導、という『特別な事』があったから可能になったというのが教職員の認識だった。

写真 47

写真 48

写真 49

写真 50

写真 47～50
　ビエンホア市障害児展覧会。2005.3.5～3.13　ドンナイ省省都ビエンホア市カフェコイグオンにて。
　ドンナイ省日越文化祭りが一つの成功をおさめながら①まだ学校教職員が主体的に参加できていない。生徒の可能性には気づいても自分たちの指導者としての可能性に気づいていない。②多くの生徒たちが作品制作という形で参加できたが、場所時間的に限られていたため当日会場に行けた生徒は一握りで、そのほかの生徒は学校でテレビ中継を見ただけだった③同じビエンホア市にあり協力隊員が派遣されている知的肢体不自由児のための施設(ビエンホア孤児養護センター)の生徒は参加できなかった。という点が心残りだった。
　しかし隊員活動も残り 3 ヶ月となった頃、ビエンホア市にギャラリースペースやステージのある大きなカフェを見つけ、離任間際にもかかわらず、どうしても改めて「みんなの手によるみんなの展覧会」を開きたくなり、カフェのオーナーに相談するとドンナイ祭りでの本校の活躍を知っていたこともあり、快く会場使用や展示全般を含め援助してくれる事になった。時間的条件などからも教員みんなが協力しあって初めて可能な企画だと本校教員に相談し、ビエンホア市孤児養護センターとも合同で展覧会を行う事を決めた。二施設の教職員が中心となって企画を考え、施設や会場オーナーを含んだ実行委員会形式で実現する事が出来た。多くの人たちのボランティアによって実現できた展覧会だった。
　この展覧会での成果は①各施設のベトナム人教職員が主体的に企画実行した。②ベトナム人教職員が生徒の力を信じて指導し制作した。（本校は教員が折り紙や造花、ビーズ、カード制作指導。私が絵画指導。弧児センターは教職員がちぎり絵、水彩画、折り紙、カード制作指導。私も協力し両施設共同制作指導）③同じ市内にある公立障害児教育施設でありながらほとんど交流のなかった教職員が協力し、上からの指導ではなく教職員が主体となって企画し、多くの人の協力をえながら実現できた。④期間が長く、生徒全員が会場に行き多くの人が自分たちの作品喜んで見たり購入する様子を実際に見ることが出来た。⑤製品の大口注文がいくつか入りそれを受けた教員と生徒たちだけで制作・販売が出来た⑥作品展示だけではなく、各施設や障害、手話・点字についての紹介も展示し、生徒と手話で話をするなどを通して一般の人たちの理解のを深めることが出来た。⑦次年度も、隊員帰国後も継続して展覧会を行う事が会場オーナー、本校校長の提案によって決定し、この活動がベトナムの人たちの手によって引き継がれていく事になった。などである。
　離任間際に「Chieko の活動は私たち青年団が引き継いで行くからね。」という同僚の言葉は、「まだこれからやれる事がある。これからがスタートなのに。」と思いながら展覧会終了 10 日後に活動を終了し帰国した私にとって、何よりも嬉しい記念の贈り物となった。

写真 51

写真 52

写真 51～54
生徒の踊り。聾の生徒たちの中で特に踊りが得意な選抜チームがあり、催し物があるとしばしば踊る。

写真 53

写真 54

写真 55　ドンナイ川

写真 56　校門

写真 57

写真 57
学校敷地内。もともとは戦争で後遺症の残ってしまった人たちのために建てられた施設だった。居住に適した建物が１３軒（教室兼居室）と食堂棟、講堂、事務室棟がある。

写真 58　食堂

写真 59　スコールと水浴び

写真 60　草刈

写真 61 水やり

写真 62

写真 62
火炎樹の花の蝶。火炎樹はベトナムの学年度末 6 月に咲く燃えるように赤い花の木。多くの学校に植えられており、日本の桜のようにこの花を見るとベトナム人は懐かしく学校を思い出すという。

写真 63

写真 63
サソリ。何か見つけると生徒が嬉しそうに持ってきて見せてくれる。サソリに刺されて死ぬ事はないがひどく腫れ熱が出るのですぐ病院にいかねばならないとのこと。見つけたら危険なのですぐ潰すか熱湯で退治する。ベトナムでの生活は日本と異なり驚くことも多かったが、基本的に必要なものは何でも手に入り生活に困る事はなかった。ベトナム生活のことを聞かれると「でもベトナムも日本も同じアジアだからね。」という一言がぴったりする。

写真 64　修学旅行。教職員家族も含んだ職員旅行を兼ねた。

写真 65 夕暮れ。夕食を涼しい外で食べることも。夕食後から夜の宿題の時間前は長閑なひと時。

写真 66

写真 66
全寮制のため生徒たちは生活に必要な事を友達と協力し合いながら身につけていく。ともに学び、遊び、食べ、寝て。まさしく 130 人家族。朝 5：３０からのラジオ体操に始まり夜９：００の就寝時間までたえず子供たちの声が聞こえてくる。開校 9 年目の本校はまもなく初めての卒業生がでる。本校の生徒たちが将来社会にどのように参加していくかはドンナイ省の今後の課題でもある。

水彩画指導の基本

＜材料＞

水彩絵の具…Công ty Bút bi Thiên Long HCM 社（Tel84.8.7505555）の水彩絵の具 Mâu Nước colo kit Waco-03 8colors 15ml　14.000₫が一番使い勝手がよい。ビエンホア市内では同じくらいの値段で発色の悪いものや色数が多くても量が少ないものが出回っているが、上記の商品は量質値段等一番妥当で生徒数の多い本校に適しており、ビエンホア市内の文具屋（Nhả Sách Đưởng Sáng）で取り寄せ購入が出来る。

描画用紙…一般的にベトナムでは美術の授業では方眼紙状のノートの紙、もしくは薄いコピー用紙を使用するが、水彩画には適さない。市場の仏具用紙細工販売店で紙細工の材料も販売しているところがあり、そこで日本の馬糞紙似のリサイクルボール紙を購入し、裁断、使用する。全判一枚3.000₫でＡ３が５枚取れ、比較的安価な事も心強い。

マスキングテープ…画用紙の４辺をマスキングする。制作完成後、マスキングをはがすことで、生徒にとっても完成の意識付けがしやすく、見映えも良く、画面保護にもなる。塗装店で購入、3.000₫

＜道具＞

タオル又はトイレットペーパー…筆の水分を調節する。

筆…ベトナム国内でも様々な質のものが購入できる。画材屋で購入できるが、ペンキ等塗装材料販売店で品揃えがあり、安く購入できる所もある。私の場合、初め自費で日本の児童がよく使っているぺんてるの筆を購入し（ベトナムでは専門家用高級筆）、子どもの表現技術が躍進する実態を示した後、活動一年目に、校長が私の自室のカーテーン等新しいものに買い換えるというので、「そのお金で筆を買って下さい。」と提案したところ、その希望が通り、生徒のために学校費で高級筆（日本の小学生が使っているペンテルの筆）を買うことが出来た。生徒の学習材料費になかなか予算が下りない中で、これは大変画期的だった。以前はＨＣＭで購入していたが、ＢＨの塗装材店で品揃えがよく安い店もあり、日本製でなくても、中国製等でも安く使いやすいものもある。

水入れ…日本の様に既製品を用意するのは難しいので、ヨーグルトの空きカップなどを利用。ヨーグルトカップはビーズ製作やカード製作等で細かな材料の分類や、盲児の指導の際に各児童に材料を分かり易く分配するためなどに大変重宝した。２年間毎日食べたヨーグルトカップや牛乳パック等は全て製作道具としてリサイクル使用した。

バケツに水…個人のカップの水が濁ったらすぐに新しい水に交換できるように、全体用に一つ用意する。

＜資料＞

写真、画集、日本の教科書等…安易な資料提供は模倣に陥りやすい（キャラクターイラストなどは自由な発想に繋がりにくい）が、様々な資料から刺激や情報を得る事は創造力を膨らませられる。参考資料については、渡越時に、日本の小学校から高校までの美術の教科書を 2,3 の出版社分（日本の教科書はベトナムで改めて見直すと参考資料としての内容も、製本技術も大変優れている。）アサヒグラフ等数冊日本の画集、日本の美術館などで買い集めた世界の絵画の絵はがきや、日本の風景等の絵はがきをもってきており、それに加え、渡越後ホーチミン等に行くたびに、ベトナムの風景等写真絵はがき、ベトナム人画家の画集、ベトナム民族等の写真集、大変出版数は少ないがベトナム語で出版されているベトナムの伝統美術などのセット画集、外国製の絵本等を買い集めた。

作品を作る際に観察力と想像力、創造力を養うことが大切なので、生徒の選んだ題材によって適した資料を選び利用できるようにする。資料はもちろんのこと、実際のものを観察し感じ取ることが一番なので、日頃からものを観察する力を養うように働きかける。

・指導の基本

水彩画のツボは水のコントロール

＜ポイント＞

①初めに、必ず上記の道具を準備する。

②重要：筆とカップの水は常にきれいな状態にする。筆洗が不十分だと色が濁り、思い通りの表現が出来ないので、常に筆を洗う習慣をつける。筆洗時には筆を丁寧に扱うよう促す。

③重要：水分コントロールがポイント。これが身につけば飛躍的に進歩する。筆の水分量：筆の水分量が多いと思い通りの描線が出せないので、トイレットペーパー等で筆の水分を調節し、一番発色しやすい状況にする習慣をつける。絵の具の濃度維持：描画中パレットの絵の具が少なくなった際に、水を追加し色を薄めるのではなく、絵の具を追加し絵の具の濃度を維持する習慣をつける。

④描画時、常に筆先を見られる状況になるように画面と筆の位置関係を調節する習慣をつける。

⑤重要：混色で色幅をひろげ自分独自の色をつくる。

⑥馬糞紙の特質上、絵の具の塗り重ねの表現がしやすく、簡単に画面に変化をつける事が出来る事を伝える。

⑦画面上、風景であれば遠いところから順に近いところへ、物体であれば奥から外に向かって（例：人物の場合肌を塗った後、服、目鼻髪等を描く）着彩する。

⑧基本的に明色から暗色の順で着彩し、黒は一番最後に入れる。

⑨下描き

・鉛筆の場合：極力消しゴムを使わない。「消しゴムは使えない。」と思うことで、一本一本の描線を描くのに集中力が増し、画面の力が増す。

・割り箸ペン：割り箸の先端をペン状に削り、墨汁（仏具屋で購入可能）をつけながら描画。割り箸ペン画の場合は鉛筆の下描きはしない。直接描くことで描線の魅力が生きるのであって、鉛筆線をなぞり描きでは線が死ぬ。割り箸ペンは生きた線を描く練習にも最適である。鉛筆画と同じ要領で割り箸ペンで描画後、簡単な着彩のみでも素朴な味わいと魅力が出、特に水彩画初級にむいている。（ベトナムの児童画では、着彩画の最後に安易に全てを黒で縁取りをする習慣がある。画材の発色の悪さから発展した描画方法かもしれないが、画一的な画面になり魅力が半減する。しかし縁取り信仰は簡

単にはぬぐいされない。しかしこの割り箸ペン画はベトナムの“ 縁取り信仰 ”と絵画の魅力を両立させることが出来る。）注意点は、着彩後、必要があれば墨汁を差しても良いが、ただのなぞり描きのように縁取りを入れないようにする。

⑩描画

・対象を自分の目でよく見て（色、形）描く。『“ 見て ”、“ 描く ”。“ 見て ”、“ 描く ”。』の繰り返し。

・愛を込めて描く。ゆっくり丁寧に。

＜水彩画の導入時の題材例＞基本的な絵の具の扱い方が身に付けば自由に絵を描けるようになる。

例Ａ　絵の具の混色

① 三原色もしくは白の中から好みの一色を選び、その色を他の絵の具セット上の色と混色する。例えば黄を基本に他の色と混色をするとする。画面上に黄色と各色のグラデーションの帯が色数分できるようにする。

② A4 の紙に左上に黄色で約直径２cm の丸を描く。

③ 例えば、まず第一に混ぜ合わせる色を赤とすると、黄色にほんの少し赤を入れ、二つ目の丸を描く。

④ その要領で、少しずつ赤の濃度を増やしていき、最終的に赤い丸になるようにする。すると一行目は黄色から赤へグラデーションで丸が並ぶ。

⑤ ２行目以降も同じ要領で他の色と順に混色する。

＜ポイント＞全ての丸が異なる色になるようにする。出来るだけ多くの丸を描くことを目標とする。この課題を通して、混色する際の微妙な色の調節技術とわずかな色数でとても多くの色を作れることを実感できる。色の変化に合わせて筆を洗う習慣、水分調節、きれいな円を描くための運筆方法などを習得できる。丸のサイズなどはあくまでも例であり、生徒の好みにまかせると、短順作業の繰り返しの中にも個性が出て面白い。

例Ｂ　色相環

① 直径約 20cm、幅約３ｃｍの環を描き、１２分割し色相環を作る

② 着彩はまず、３原色を塗り、次に各三原色の間の中間色を塗る。例えば、青と黄の間であれば緑を塗り、その後緑の前後の青緑、黄緑を塗る。同じ要領で、赤－黄間、青－赤間も着彩する。

＜ポイント＞色の名前や混色の際の各色の相対関係、筆洗の習慣、運筆方法を習得できる。

例Ｃ　葉の写生

木の葉や草などを一人一枚用意しそっくり同じ色を作りながら描写するのも、色作りと観察力を養える。